

進んで助けよう

笠岡市立吉田小学校 第3学年



1 教科等 特別の教科 道徳

2 主題名 進んで助けよう [B 友達・信頼]

3 ねらいと教材

(1)ねらい お母さんの言葉をきっかけに、親切にしたことで、元気になった友達を見て、「本当に良かった」と思う主人公の姿を通して、友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。

(2)教材名 「明るくなった友達」(出典:Gakken「新・みんなの道徳」)

4 主題設定と理由

(1)指導内容について

本指導内容は、友達関係の基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関するものである。人は幼少期から大人に至るまで、友達の存在に助けられ、成長していくものである。幼いうちは、自分の仲よしの友達以外には関心をもちにくい傾向がある。

そこで、指導に当たっては、気の合う友達同士の集団にこだわらず、今まであまり関わってこなかった友達であっても、困っていたら進んで助けたり、そこから信頼関係を築いていったりすることが、さらに自分の人生を豊かにすることに気付かせたい。

(2)教材について

本教材は、学校を休んでいる友達との関わりを通して、ねらいに迫るものである。原作が児童作文であり、日常生活の中で起こりうる話でもある。また、正しい行動が分かっているにもかかわらず、自分が友達にどう見られるか心配する千緒の心の葛藤にも共感しやすいため、実際に千緒の立場になって考えさせることで、授業に深まりが出る教材でもある。

本教材を通して、友達関係について互いに理解し、助け合うことの大切さについて考えを深めることができるようにしたい。

5 本時(本実践)と人権教育

自分や友達のよさを認め合い、互いに助け合って行動する態度を育てる。

〈自他の価値を尊重しようとする意欲や態度(価値的・態度的側面)〉



6 学習指導過程

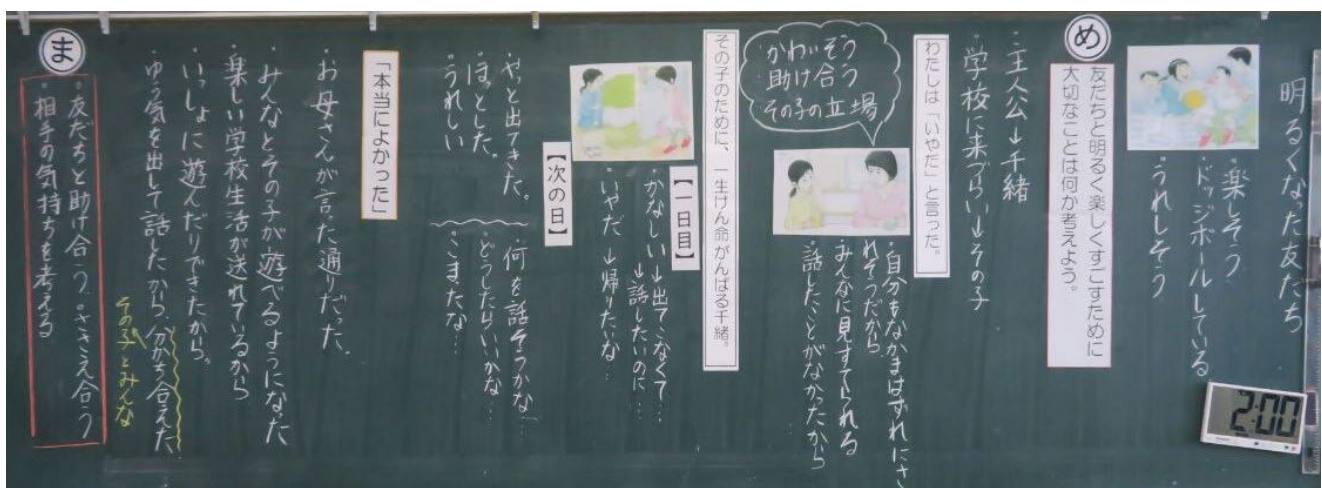
人権教育の視点から特に重要なこと……★

	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点
導入	○この絵の中の子たちはどんな様子でしょうか。 ・笑っている。楽しそう。 ・ボール遊びをしているのかな。 ・休み時間になって、外に飛び出した。 友だちと明るく楽しくすごすために大切なことは何か考えよう。	・明るい表情であることに注目し、めあてにつなげる。
展開	○「いやだ」と言った時、千緒はどんなことを考えていたのでしょうか。 ・何で私が行かなきゃいけないの。 ・他の子もいるのに、なんで自分だけなんだろう。 ・私には無理だよ。その子のことをよく知らない。 ・声をかけるのがこわい。仲間はずれにされそう。 ・まわりからへんな目で見られる。 ○お母さんは、どんな思いで千緒に「むかえに行ってあげるといいね」と言ったのでしょうか。 ・クラスメイトだから声をかけてあげてほしい。 ・友達にやさしくしてほしい。友達を大切にしてほしい。 ・こまっている友達を助けてあげてほしい。 ○その子のために、一生けん命がんばる千緒はどんな思いだったのでしょうか。 〈不安・心配(1日目)〉 ・やっぱり無理かな。 ・みんなが見ているな。 ・出てきてほしいな。明日は出てきてくれるかな。 〈希望・期待(次の日とその後)〉 ・安心した。うれしい。 ・いっしょに遊びたい。 ・みんなも遊びたかったんだ。本当は同じ気持ち。 ◎「本当に良かった」という千緒は、今どんなことを思っているのでしょうか。 〈その子に対して〉 ・元気になってよかった。明るくなってよかった。 ・みんなとなかよしになってよかった。	・自分が千緒の立場だったらどんな気持ちになるかを考えさせることで、主人公の気持ちの葛藤に共感することができるようにする。 ・お母さんの視点で考えさせることにより、友達の大切さについて考えてほしいという思いを理解することができるようにする。 ・班で話し合うことで、友達と考えを共有したり、自分の考えを広げたりすることができるようにする。 ★千緒の気持ちを考え話し合わせることで、友達を大切にしようとする気持ちに気付くことができるようにする。 ・展開に応じて、「クラスみんなはどんな思いで集まってきたのか」を問う。

	〈自分に対して〉 ・むかえに行ってよかった。 ・勇気を出してよかった。 ・行動してよかった。 〈クラスの人々に対して〉 ・みんなも集まってくれてうれしかった。 ・みんなも心配していたんだ。 ・みんなも声をかけたかったんだ。 〈お母さんに対して〉 ・不安だったけど行ってよかった。親切にしてよかった。 ・お母さんの言うとおりでよかった。	
終末	○友達と明るく楽しくすごすために大切なことはなんでしょうか。 ・友達が困っていたら助ける。 ・迷っても、勇気を出して行動する。 ・思いやりの気持ちが大事。 ・相手の立場に立つ。 ・相手の気持ちを考えて話したり、行動したりする。 ○千緒から学んだことを通して、これからの生活で自分に生かせることは何かを振り返りましょう。	★今までの自分自身を振り返らせることにより、友達との関わり方について考えることができるようになる。 ★色々な意見があることに気づき、自分や他の友達の意見も尊重することができるように振り返りを行う。

〈 評価の視点 〉

どんな友達であっても互いに理解し助け合うことの大切さについて多面的・多角的に捉え、友情についての考えを深めている。



気持ちの通い合い

笠岡市立吉田小学校 第4学年



1 教科等 特別の教科 道徳

2 主題名 気持ちの通い合い〔B 親切、思いやり〕

3 ねらいと教材

(1)ねらい 若い男性と、男の子とのやり取りを見て、心が動いた「ぼく」の姿を通して相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

(2)教材名 「温かい言葉」(出典:Gakken「新・みんなの道徳」)

4 主題設定と理由

(1)指導内容について

本指導内容は、よりよい人間関係を築く上で求められる基本姿勢として、相手に対する思いやりの心をもって親切にすることに関するものである。成長するにつれて、一方的に自分の思いだけを主張するのではなく、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを想像したりする必要があるのだということが理解できるようになってくる。思いやりとは、相手の気持ちや体調を推し測り、よかれと思う気持ちを相手に向けることであり、相手の存在を受け入れ、良さを見いだそうとする姿勢が大切である。その結果として励ましや援助などの行為につながる。また、単に援助するだけでなく、時には見守ることも親切な気持ちの表れである。

指導に当たっては、親切の行為が必ずしも相手にとって望むものではない時に、どのようにしたらよいかを考え、相手の気持ちを尊重する心情を育てたい。

(2)教材について

本教材は、自分のよいと思う親切と受ける側の思いは必ずしも一致しないときもあると知ることを通して、ねらいに迫るものである。

若い男性が、足にギプスをはめた男の子に自分の親切を断られて詫びる姿と、男の子がそれに応じる姿を、「ぼく」が外側から見る視点で描かれている。

親切が受け手の望みに合わず否定された時、相手を非難するのではなくその気持ちに寄り添うことも、思いやりの一つの形だということを学ぶことができる教材である。二人のやり取りを見ている「ぼく」が「お兄さんのようになりたい。」と思ったことを中心場面とし、親切をする側と親切にされる側の双方の立場に立って考えることを通して、親切にする際に相手の気持ちを考えることができるようにしたい。

5 本時(本実践)と人権教育

自分や友達のよさを認め合い、互いに助け合って行動する態度を育てる。

〈自他の価値を尊重しようとする意欲や態度(価値的・態度的側面)〉



6 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと……★

	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点
導入	○福祉体験をしてみてどうでしたか。 ・体を動かしづらい ・こわい ・しんどい、大変 ・不自由な人を見たら助けたい 親切にするとときに、大切にすることは何だろう。	・福祉経験をもとに考えることで、自分ができていることを想起させる。
展開	○ギプスをはめた男の子を見ていたぼくはどんな気持ちになったのでしょうか。 ・手を貸してあげたい。 ・誰か声をかけたらいいのに。 ・みんなつめたいなあ。 ・声をかけたいが、はずかしい。 ・何もできない。 ○お兄さんはどんな気持ちで男の子に「ごめんよ」と言ったのでしょうか。 ・傷つけてしまった。 ・君の気持ちを考えていなかった。 ・助けることだけが親切ではない。 ・応援しているよ、がんばって。 ○男の子はどんな気持ちで「ありがとう」と言ったのでしょうか。 〈「ごめんよ」に対して〉 ・えらそうに言ってしまったけど、うれしかった。 ・ぼく(男の子)の気持ちに気付いてくれた。 ・ぼく(男の子)の様子を気にかけてくれた。 〈「がんばれ」に対して〉 ・声をかけてくれた。 ・一人で上りたい気持ちを、分かってくれた。 ・応援してくれた。 ・いつでも助けるよと感じた。 ・見守っているよと感じた。 ◎ぼくは、二人のかわした「ごめんなさい」「ありがとう」を聞いて、どんなことを思ったのでしょうか。 〈お兄さんに対して〉 ・お兄さんのような人になりたい。 ・腹を立てず、男の子の気持ちにすぐに気付いた。 ・思いを行動に移すことができる。 ・素直に言葉を伝えられる。 ・お礼を言ってほしくて声を掛けたわけではない。 ・本当に優しい。	・声を掛けることができない部分があることをおさえる。 発問前に状況を整理する 男の子→一人で階段を上がっている お兄さん→手伝ってあげよう



	〈男の子に対して〉 ・これからがんばってほしい。 ・しばらく不自由なことがある。 ・早く治そうとしている。 ・自分の気持ちを伝えられるのはいいな。 ・できることをがんばろうとしているから、かっこいいな。 〈自分に対して〉 ・この場面では、見て見ぬふりをしてしまった。 ・勇気が出なかった。 ・「大丈夫」とたずねるくらいはできるようになりたい。 ・男の子(相手)の様子に気付いてあげられる人になりたい。 ・声をかけたい。	
終末	○この時間に学んだことは何ですか。 ・親切にするには、相手の気持ちを思いやることが大切。 ・手助けすることだけが、親切ではない。 ・自分の思いを伝えるばかりではいけない。 ・人は、いつも助けて欲しいと思っているわけではない。 ・相手の思いを知ることは大切。	★立場の違いでいろいろな考えがあることに気付き、それぞれの意見を尊重できるようにする。

〈 評価の視点 〉

相手の気持ちを尊重することの大切さを感じ、多面的・多角的に捉え、自分事として考えたり話したりしている。(発表・ワークシート)

